

時の動き

広がる米国学生のパレスチナ連帯行動

アメリカ社会運動ウオッチャー

佐野 修吉

人間のすることとは思えないイスラエルのガザでの蛮行が止まらない。この蛮行に対して、アメリカの学生たちが抗議運動を始め、それが世界中に広まった。

アメリカは世界で最も多くユダヤ人が住み、イスラエル建国時から支援してきたため、親パレスチナの行動はなかなか表に出なかった。しかし今回は学生たちが前面に出て、抗議行動を開始した。ところが、大学当局がその中心的な学生団体への活動停止命令や個人の退学処分をおこない、運動がさらに広がることになった。

注目を集めたキャンプで抗議

抗議運動は、大学構内でデントを張ってキャンプすることで社会的に注目された。それを警察権力で排除したため、さらに社会的インパクトを与える行動になった。キャンプによる抗議運動は全米に広がり、逮捕者は3千人近くに達している。

昨年のイスラエルによるガザ侵攻直後から、多くの大学で虐殺に抗議する運動は開始された。最初は、「即時停戦」がメイン・スローガンだったが、年末から「ダイベスト（経済的・学術的投資をすべて撤退すること）」が加わった。

実は、アメリカの大学は公・私立を問わず巨額の資金を持っている。授業

料と卒業生からの寄付を原資とするものだ。コロンビア大学の総資産は187億ドルに及び、その資金を運用して大学経営資金としている。学生たちが問題にしたのは、その資金をイスラエルの軍需産業へ投資していることだ。「私たちの授業料が殺戮に使われている」ことを問題視し、ダイベスト（投資撤退）を求めているのだ。

Z世代の感覚

イスラエルの人口は約950万人だが、アメリカに住んでいるユダヤ人は約570万人に達する。しかも、富裕層が多く政治的影響力も大きい。高齢者は当然のこととして、イスラエルを支持してきた。しかし、この間、アメリカでは世代ごとの感覚の違いが明

◆時の動き



サンフランシスコ州立大学でのキャンプ行動

<https://jakobin.com/2024/05/san>

-francisco-state-student-protest-palestine

かになっている。特にZ世代と言われる1990年代後半から2010年頃までに生まれた人たちであり、学生の大半がZ世代だ。「大人たちが見て見ぬふりをして後回しにしてきた環境問題や人種差別などの実態を目にしてきたがゆえに、『私たちの世代で変えなければいけない』という使命感を持ち

やすい」と竹田ダニエル氏が紹介している世代だ。この世代が、パレスチナの出来事に心を痛め、アメリカの貧富の格差の激しさへの怒りとともに、行動に出ているのだ。

多様な活動団体

アメリカの学生たちは、さまざまな社会問題に団体を作って取り組んでいる。たとえば、コロンビア大学では「コロンビア大学アパルトヘイト・ダイベスト(CUAD)」という連合体が結成されている。活動停止処分を受けた「パレスチナの正義を求める学生」「ユダヤ人の平和の声」だけでなく、「YDSA 青年アメリカ民主社会主義」「アジア系アメリカ人連合」「アフガニスタン学生同盟」「大学院ムスリム学生協会」など政治、人種、宗教などを課題とする50近い団体が構成されている。社会問題への関心が高く、なんとかしなければという思いが、アメリカの学生の間に浸透していること

が、動画や写真からも伝わってくる。

学生が労働組合を組織

もう一つ見逃せないことが関連している。アメリカの学生たちは、高い学費を賄うために、大学当局に様々な形で雇用されている。

コロンビア大学では2021年に院生がUAW(全米自動車労組)の支部を約3000人で結成し、ストライキで交渉権を確立した。カリフォルニア大学でも、教授助手や各種調査担当として働く大学院生4万8千人が所属してUAWの支部が結成され、22年にストライキを実施している。

この学生労働組合も今回の運動のベースになっていることも間違いない。また、既存の労働組合も学生との連携を強め始めている。

アメリカでは、Z世代が社会を変えつつある。

(さ) しゅうきち